

戦略研レポート NO.3

「政策の競争を起こすべき ～政策系シンクタンクの必要性～」

提言と背景

いま日本において、政策の競争を起こすべきであり、そのためには政策系シンクタンクを機能させる必要があります。

なぜならば、①高度経済成長の終焉以降、その成長モデルでは現在の社会的な課題（たとえば、財政破綻、社会保障、食糧資源など）に対処できておらず、むしろ社会的な混迷を深めていること、②冷戦終了以降、国際情勢の変化から単に日米関係に依存していれば良かった外交政策では機能しなくなったにもかかわらず、新興国の台頭という新たな局面の中で、日本の国際的な立ち居地が不明確のままであること、そして、③日本における政策は、いわゆる「霞ヶ関」という官僚主導での立案のみであり、その代替がなく、これを比較検討、あるいは比較評価することもできない状況だからです。

以上から、国内外の環境変化という「脅威」に対応し、日本の選択の幅の無い政策立案能力という「弱み」を克服するため、日本における中長期の戦略を策定し、日本の国際的な立ち居地を明確にするべきであり、これに合致する政策を生み出すための政策系シンクタンクを機能させることが必要不可欠かつ最優先の事項です。そして、複数の政策系シンクタンクから出される政策案を政治家、ひいては、一般国民が吟味し、選択する必要があります。さらには、この複数の政策系シンクタンク間の競争を促し、この効果の測定を行う仕組みが必要です。

方策（中長期）の要点

しかしながら、日本の現状において、政策系シンクタンクは皆無と言っても良い状況となっています。この状況を克服するためには、①政策系シンクタンクを担う人材の育成が必要です。このためには、官僚、ビジネス、政治、大学、研究機関を人材が行き来し、理論と現実の双方を把握できるようにする「リボルビングドア」が必要であると考えとともに、「政策系シンクタンク先進国」（注 1）である米国より人材を流入させることも検討する必要があります。また、②このヒトの育成、さらには、政策系シンクタンクの中長期の調査・研究を継続させるためのカネが必要となります。このためには、一般市民、経済界、あるいは税金からの公正な拠出などを検討する必要があります。なお、中央政府や地方政府からの研究委託金についても、これら政府との距離を保ち、依存度を適正にするための修正を行う必要があります。

上記の前提として、マスコミは「政局」中心の報道から「政策」（立案段階での）中心の報道への修正を行う必要があります。また、政策系シンクタンクは、国内、海外の問題に対する中長期の予測や一般市民のニーズの把握をもとに、インターネットの活用やシンポジウムの開催、出版など一般市民への情報開示や情報共有をさらに強化するとともに（現状では不十分と考えます）、一般市民自身が政策立案への参加意識を向上させる必要があります。

方策（短期的）の要点

短期的な検討としては、まず、政党あるいは政治家の中長期の視点における戦略策定能力、政策立案能力の向上が必要であり、たとえば、政党系シンクタンク（注 2）に、これらの能力向上のサポートを行わせ（現在以上に、予算、人員、コミュニケーションを拡充して）、また、中央政府・地方政府ともに議員数を削減する代わりに、政策スタッフ（ただし、上記のリボルビングドア的な人材が必要ですが）の拡充を行うなどの施策が考えられます。

注 1 米国の政策系シンクタンク（大規模、総合的なもの）

ヘリテージ財団
エンタープライズ公共政策研究所（AEI）
ブルッキングス研究所
ケイトー研究所
外交問題評議会
戦略国際問題研究所（CSIS）

注 2 政党系シンクタンク（中長期の戦略作成、政策立案を本来のミッションとする。政党との距離がメリットでもあり、デメリットにもなり得る）

- ・自民党系
シンクタンク 2005・日本 <http://www.tt2005.jp/>
- ・民主党系
公共政策プラットフォーム（プラトン） <http://www.platon-web.net/>

※ 参照資料

1. 戦略経営研究会 2008年6月7日ミーティング議事録（PDF）
URL
2. 竹中平蔵氏、鈴木崇弘氏、坂田顕一氏の政党シンクタンクについての鼎談
G－sec ニュースレター の第3号「政党系シンクタンクへの期待」
<http://www.gsec.keio.ac.jp/newsletter/index.html>
3. 諸君（文芸春秋）6月号（最新号）の横田由美子氏の論文
「竹中流シンクタンクは福田・霞が関政治に風穴をあけるか」
4. 鈴木崇弘氏の著作
「日本に民主主義を起業する」（第一書林）
<http://item.rakuten.co.jp/book/4400371/>
5. 横江公美氏（PACIFIC21 代表）の著作
「第五の権力 アメリカのシンクタンク」（文春新書）
「アメリカのシンクタンク 第五の権力の実相」（ミネルヴァ書房）